

「教職員定数改善計画」の着実な実施と教育予算拡充を求める  
請願書

提出 平成 24 年 8 月 28 日

松阪市議会議長 中森 弘幸 様

紹介議員

久松倫生

田中祐治

中村良子

山本芳荀

水谷晴天

野口正

中長実

提出者

三重県松阪市殿町 1563

松阪市 P T A 連合会

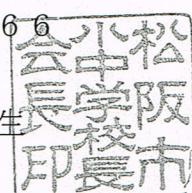
会長 太田憲



三重県松阪市飯南町粥見 566

三重県松阪市小中校長会

会長 植北嘉生



三重県松阪下之庄町 327-1

三重県松阪市幼稚園長会

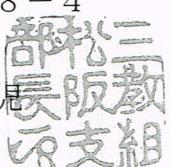
会長 伊藤秀子



三重県松阪市垣鼻町 1528-4

三重県教職員組合松阪支部

支部長 喜田健



## 請願の趣旨

子どもたちの「豊かな学び」の保障にむけ、「教職員定数改善計画」の着実な実施と教育予算の拡充をおこなうよう決議いただき、国の関係機関に意見書を提出いただくようお願い申し上げます。

## 請願の理由

2011年の「義務標準法」改正により、30年ぶりに学級編制基準が引き下げられ、小学校1年生の35人以下学級が実現しました。2012年には、法改正による引き下げではないものの、小学校2年生への拡大が実質的に実現しています。これらは、2010年8月に、文部科学省が10年ぶりに策定した「教職員定数改善計画」にもとづいており、同「計画」には「小・中学校の少人数学級(35・30人学級)の推進」「公立高等学校等の教職員配置の改善」等が、盛り込まれています。

三重県では、2003年度からすでに小学校1年生の30人学級（下限25人）が実施されており、その後も小学校2年生の30人学級（下限25人）、中学校1年生の35人学級（下限25人）と他学年への弾力的運用等、拡充しています。今年度は、国の政策と連動したことにより、少人数学級適用外だった部分が一部解消され、さらなる拡充につながっています。少人数学級が実施されている学校では、「子どもたちが活躍する場が増えて、ますます意欲的になった」「子どもの話をじっくり聞くことができる」等の保護者、教職員の声があり、大きな成果をあげています。

2011年12月に文部科学省と財務省が取り交わした合意文書では、「教育の質の向上につながる教職員配置の適正化を計画的に行うこと、その他の方策を引きつづき検討し、その結果に基づいて必要な措置を講じる」とされています。継続的・計画的に少人数学級を推進することはもちろん、事務職員や栄養教諭、養護教諭の増員、スクールカウンセラーの配置等、抜本的な定数改善や、高校も含めた「教職員定数改善計画」の着実な実施が求められています。

一方、日本の教育機関に対する公財政支出の対GDP比は、経済協力開発機構（OECD）加盟国の中位5.0%を大きく下回り、最下位の3.3%（2011年公表資料）となっています。山積する教育課題の解決をはかり、未来を担う子どもたち一人ひとりを大切にした教育をすすめるためには、教育予算の拡充が必要です。OECD平均以上となるよう、求めていかなければなりません。

以上のような理由から、「教職員定数改善計画」の着実な実施と教育予算の拡充を強く切望するものです。